

万代長嶺小学校6年生が大河津分水を訪れました！ ～治水の歴史と豪雨災害を学ぶ現場学習～

- ◆9月21日（水）、新潟市立万代長嶺小学校6年生の皆さん（60名）が、現場学習のため大河津分水を訪れました。
- ◆万代長嶺小学校では、平成22年度に「信濃川を学ぶキッズリバーガイド」の取り組みなどの活動を続けており、今回は信濃川学習の一環として越後平野発展の礎となった大河津分水について、その歴史と役割を学ぶため現場学習が行われました。
- ◆当日は、はじめに明治29年の「横田切れ」による大水害の爪あとが今なお残る宝光院（新潟市西区）を見学した後、信濃川大河津資料館に移動し、水害の恐ろしさや大河津分水の役割について模型やビデオで学びました。さらに、現在改築が進められている新しい可動堰の現場を見学しました。
- ◆子どもたちは、熱心にメモを取り担当者に質問をしたり、巨大なゲートを目の当たりにして歓声を上げたりするなど、楽しみながら学習に取り組んでいました。



←大河津分水ができる前の稲作の模型に驚いた様子でした



大河津分水の全体模型の説明に耳を傾ける子供たち



←資料館4階から、新旧可動堰の説明に耳を傾ける子供たち



可動堰改築現場では、日本最大級の巨大なゲートを前に歓声を上げていました→

子どもたちの声

★信濃川大河津資料館にて

- ・昔の人たちは舟に乗って稲刈りや田植えをしていたことを知ってびっくりした。
- ・もし大河津分水がなかったら大変！
- ・勉強したことを新潟市の人たちに教えたい。

★可動堰改築現場にて

- ・実際に見ると、今の可動堰に比べて新しい可動堰がとて大きかった。
- ・新しい可動堰ができれば洪水をたくさん流せるので新潟市の人たちも安心できる。
- ・ゲートの一部をオランダから運んできたなんてすごい！